

噴火の概要

発生日時 2014年9月27日

噴火位置 山頂南西側

被害状況 山頂南西側の地獄谷源頭部で水蒸気爆発が発生し、死者58名、行方不明者5名、負傷者69名の人的被害が生じた。噴煙高度は火口縁上約7,000mと推定。

大きな噴石が火口列から1km程度の範囲に飛散。岐阜県下呂市付近から山梨県笛吹市付近にかけて降灰を確認（気象庁聞き取り調査）。火砕流も発生し、火口列から南西方向に約2.5km、北西方向に約1.5kmまで流下。

被害状況は消防庁の災害情報及び気象庁ホームページによる。

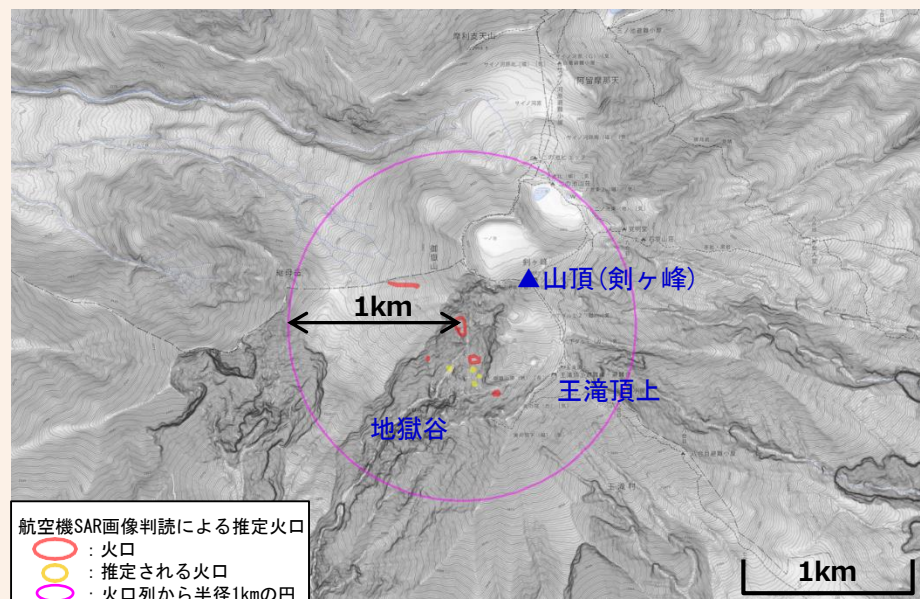
山頂の紅葉が見ごろになった初秋のお昼前という、人が多いタイミングに噴火が起きて大きな被害となってしまったんだ。

みなさんが行楽で登る山にも活火山が含まれていることを忘れてはいけないよ。

地理院地図の機能を使えば、中心から任意の距離の円を簡単に作成できるよ。地図を活用して、噴火警戒レベルの違いによる規制範囲などを確認してみよう。

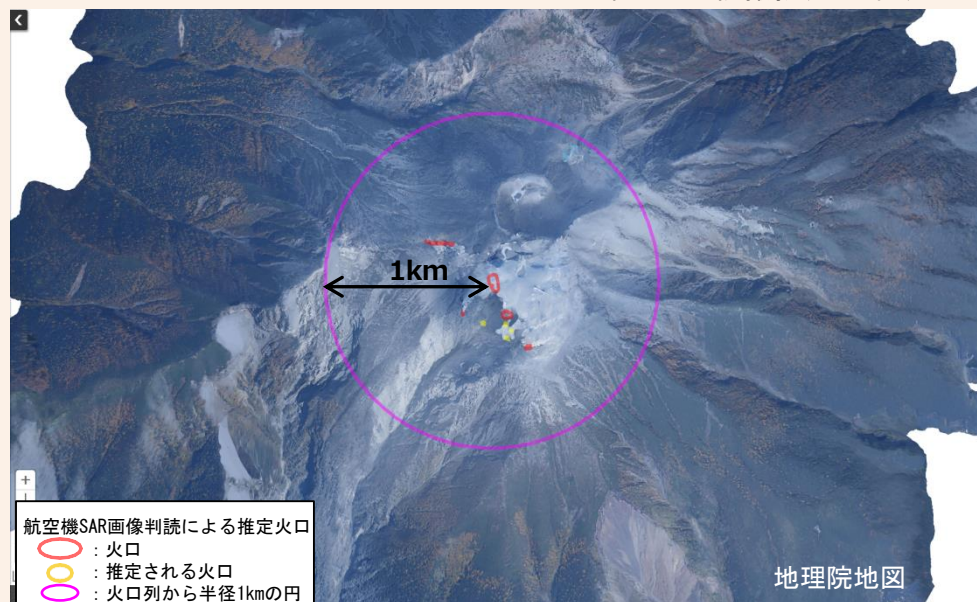


火山基本図データと推定火口

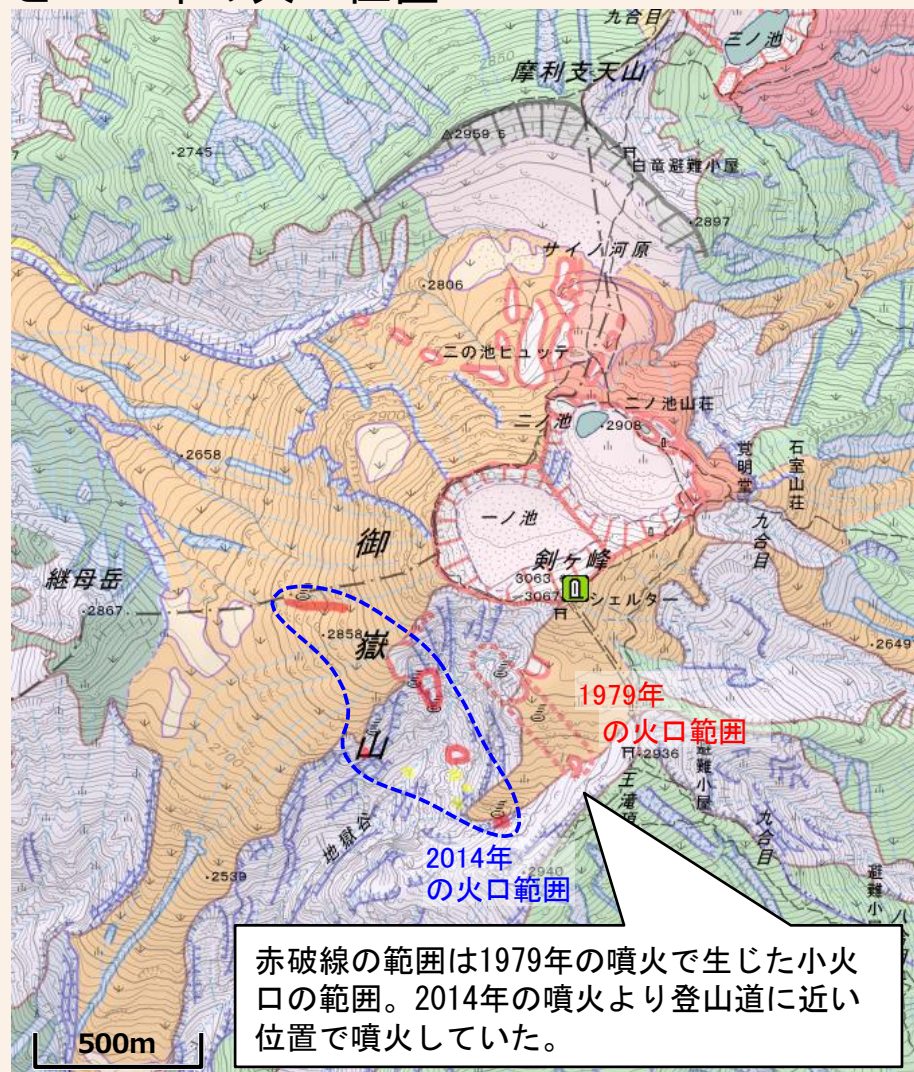


正射画像と推定火口

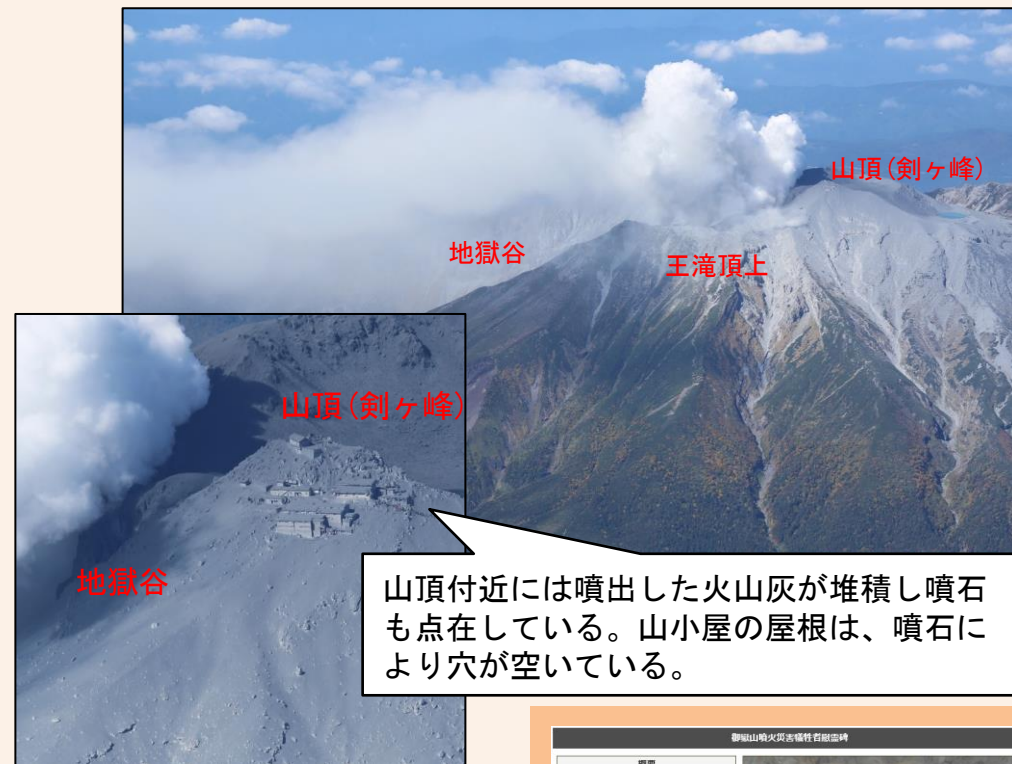
国土地理院撮影(2014年9月29日)



火山地形分類データ (2009・2010年調査) と2014年の火口位置



斜め写真 2014年9月28日撮影



御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑

平成26年(2014)9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。



噴火の概要

発生日時 1958年6月24日

噴火位置 中岳火口

被害状況 22時15分に中岳第1火口が突然噴火、噴石は火口の西1.2kmの阿蘇山測候所に達する。

山腹一帯に多量の降灰砂、死者12名、負傷者28名、建築物に被害。この年は7、9～12月にも噴石活動。

被害状況は気象庁ホームページによる。

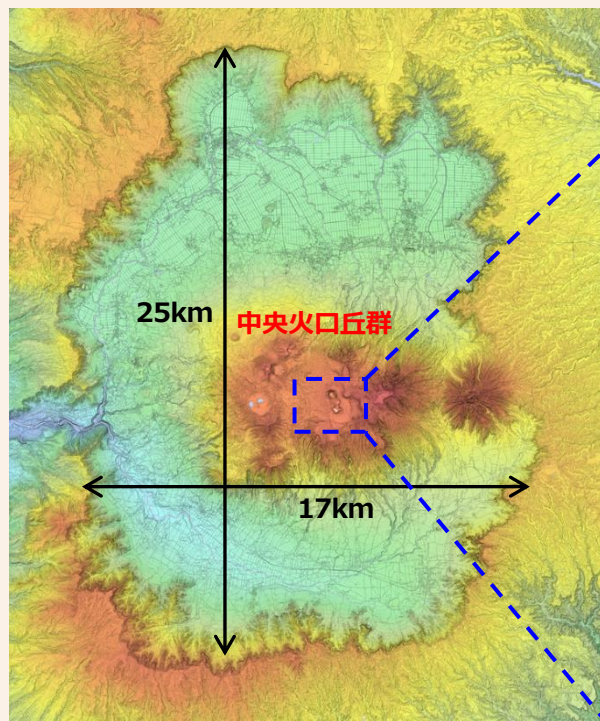
近年は、カルデラを形成するような大規模な噴火は起きていないが、中央火口丘群の1つである中岳では、有史以降も活発に噴火しているよ。

1958年当時、山上広場に宿泊できる施設があり、噴石や火砕サージによって施設が倒壊するなどして、大きな被害が起きたんだ。

1953年にも噴火があり、火口付近で見学していた6名が亡くなっているよ。最近でも2015年や2016年、2021年等には火口周辺に大きな噴石を飛散させるような噴火が起きているんだ。



火山基本図データ（陰影段彩図）



中岳火口周辺

国土地理院撮影 (KU738Y-C7-6)



最近の噴火による被害

国土地理院撮影 (CKU20177-C4-13)

2017年5月撮影



2016年の噴火では、噴石によりロープウェイ駅の建物に穴が空くななどの被害が生じた。

噴石・火山灰

阿蘇山



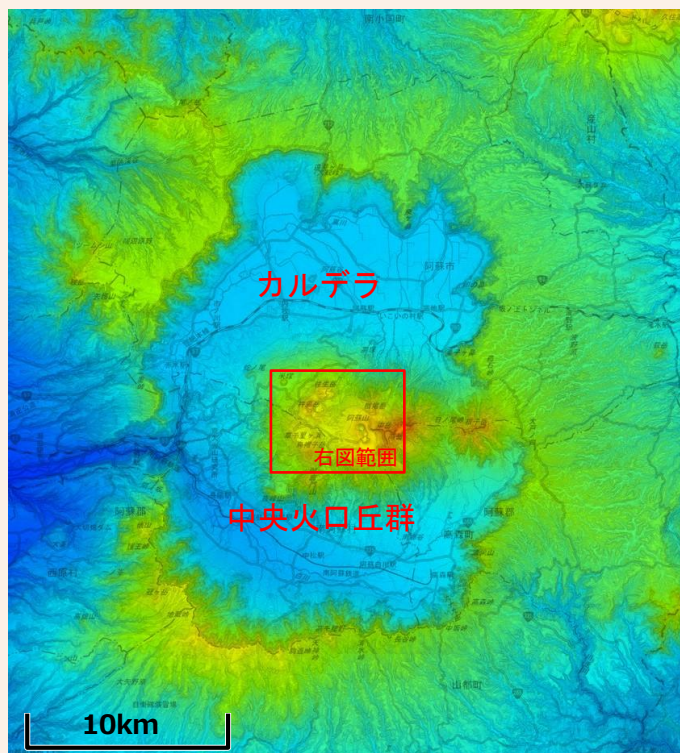
阿蘇山は九州の中央部に位置し、東西17km、南北25kmのカルデラと、中岳、高岳などの中央火口丘群を有する複式火山です。中央火口丘群は複数の火口から噴出した物質により形成されており、火砕丘、溶岩円頂丘、溶岩流堆積地、小成層火山体など様々な形態を示しています。

火口の周りに噴石などが積み重なって生じた円錐形の丘のことを火山碎屑丘（火砕丘）というよ。現在活動している中岳の周りにも複数見られ、噴出物の種類によってスコリア丘と言ったりするんだ。

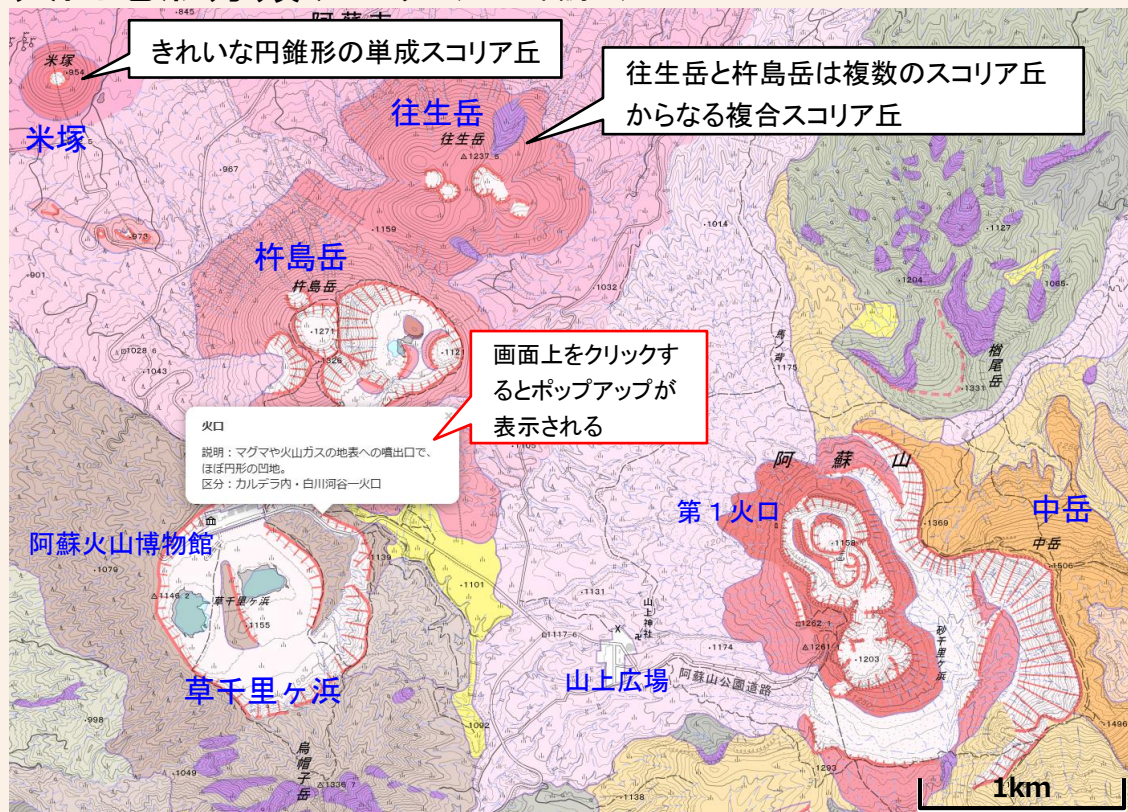
地理院地図で、それぞれの火山地形の説明を見ることができるよ。火山地形分類データを表示させて、確認してみよう。



自分で作る色別標高図と傾斜量図



火山地形分類データ (1992年調査)



噴火の概要

発生日時 2018年1月23日

噴火位置 本白根山

被害状況 草津白根山の本白根山で10時2分頃に水蒸気爆発が発生。噴石により、山頂付近のスキー場（当時）で訓練中の自衛隊員1名死亡、重傷3名、軽傷8名の被害が発生。ロープウェイの停止に伴い81名が取り残された。その後、山頂のスキー場、ロープウェイは廃止。

被害状況は消防庁の災害情報及び気象庁ホームページによる。

スキーシーズンのゲレンデ近くで噴火が起こり、大きな被害となってしまったんだ。

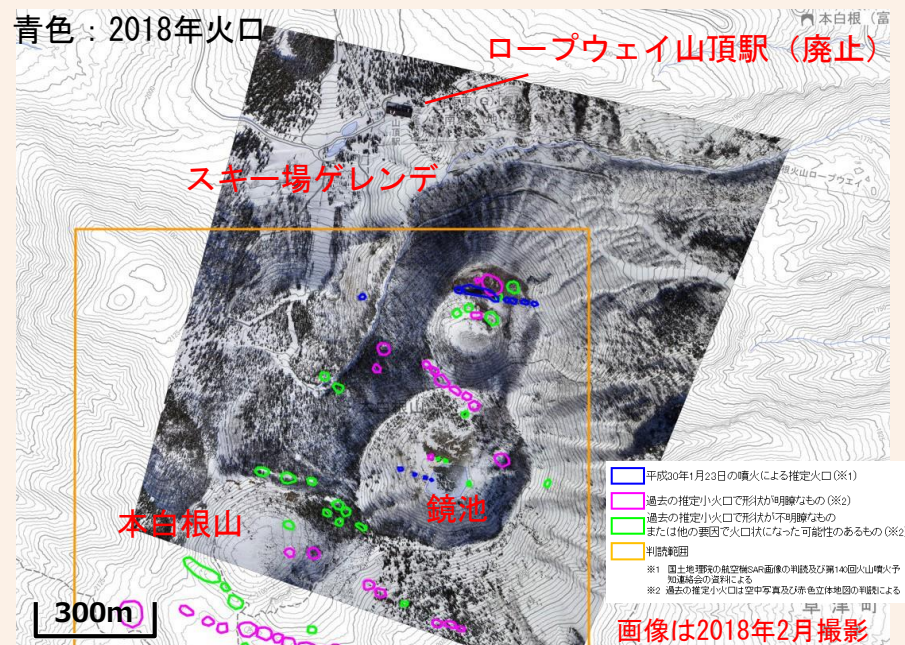
整備されたリゾート施設の周辺にも活火山があることを忘れてはいけないよ。

気象庁のホームページでそれぞれの活火山の噴火警戒レベルを確認できるよ。

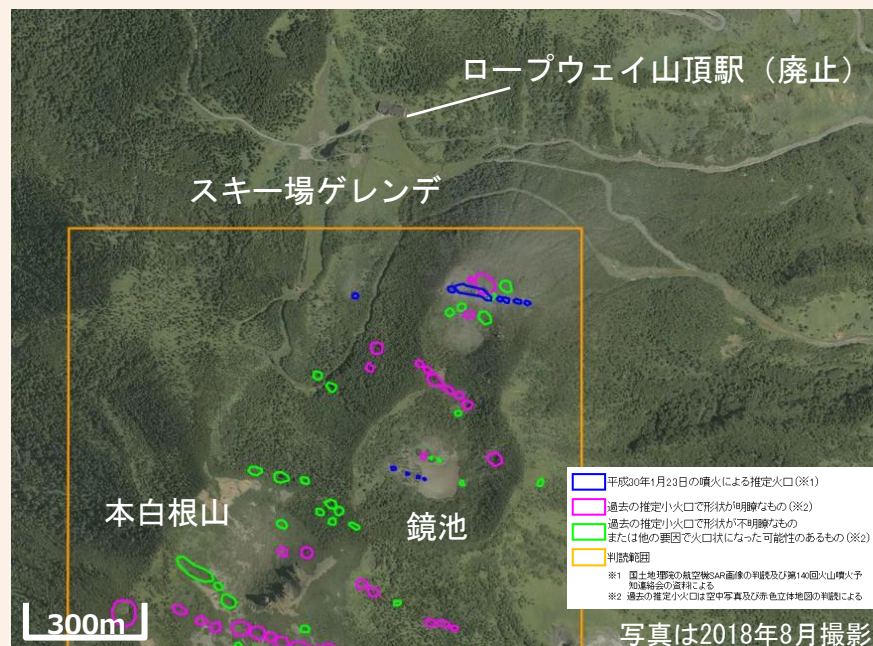


火山基本図データ（基図）と推定火口位置

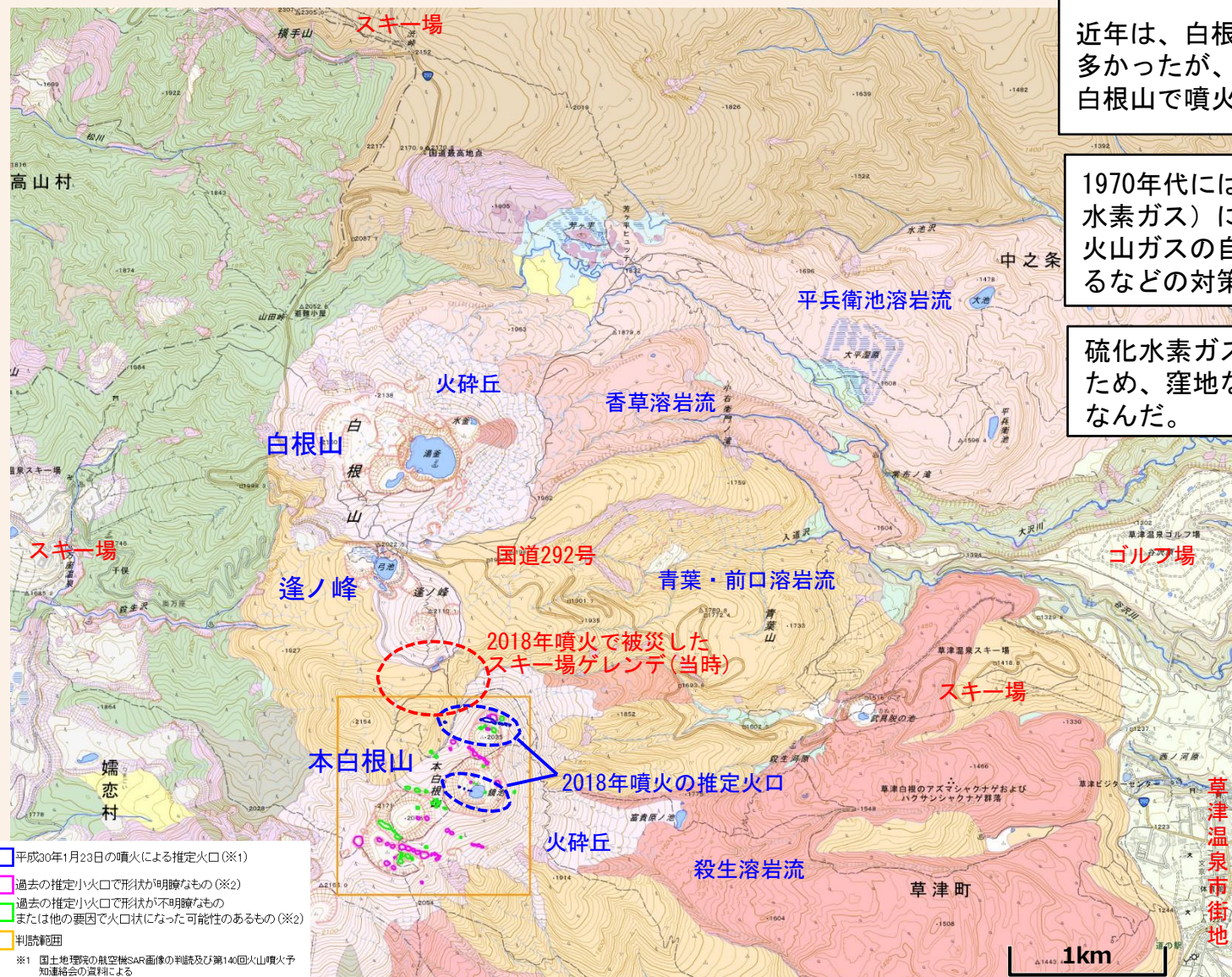
青色：2018年火口



雪解け後のオルソ画像と推定火口位置



火山地形分類データ (1990年調査)



近年は、白根山山頂付近での噴火が多かったが、2018年の噴火では、本白根山で噴火したんだ。

1970年代には有毒な火山ガス（硫化水素ガス）による死亡事故が発生し、火山ガスの自動測定警報機を整備するなどの対策が行われているよ。

硫化水素ガスは、空気に比べて重いため、窪地などに溜まると大変危険なんだ。



※1 国土院の航空機SAR画像の判読及び第140回火山噴火予知連絡会の資料による
 ※2 過去の推定小火口は空中写真及び赤色立体地図の判読による